

資料編

1. 環境基本計画策定組織

(1) 交野市環境審議会（令和4年3月23日現在）

（敬称略）

交野市環境審議会条例 第3条第2項第1号に係る委員 【学識経験者】	
氏名	所属
石川 宗孝	大阪工業大学 工学部 名誉教授
植松 千代美	大阪市立大学 大学院 理学研究科 准教授
交野市環境審議会条例 第3条第2項第2号に係る委員 【関係行政機関の職員】	
氏名	所属
安藤 馨	大阪府中部農と緑の総合事務所 みどり環境課 課長
葛城 真美子	大阪府四條畷保健所 衛生課 課長
交野市環境審議会条例 第3条第2項第3号に係る委員 【その他市長が適当と認めるもの】	
氏名	所属
堀家 歳史	北大阪商工会議所 交野支所長
田中 茂年	交野市工業会 理事（有限会社田中企画）
西川 登志雄	交野市商業連合会 会長（白星舎クリーニング）
寶田 勝憲	一般社団法人交野市医師会 理事（宝田クリニック）
和田 卓也	交野市PTA協議会 第一中学校会長
奥田 中	交野里山ゆうゆう会 会長
日野 安三江	交野市消費生活問題研究会
玉井 八恵子	交野市環境基本計画推進会議 代表

(2) 交野市環境基本計画策定ワーキンググループ

(敬称略)

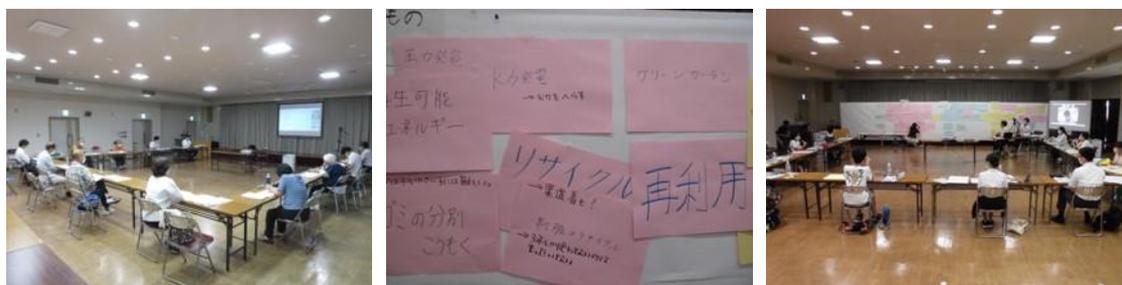
氏名	所属
田中 吉隆	大阪府環境農林水産部エネルギー政策課
幸田 良介	地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所 生物多様性センター
玉井 八恵子	公募市民
足立 秀次郎	公募市民
西 政 樹	交野市工業会 (株式会社西工務店)
荒賀 貴章	交野市商業連合会 (フレンドマート交野店)
山本 崇正	かたの環境フェスタ市民会議 (交野みらいの会)
藤田 壽一	交野里山ゆうゆう会
多田羅 正彦	交野みどりネット (自然環境部会)
浅田 恵子	交野みどりネット (エコ生活部会)
北迫 令子	交野みどりネット (まちづくり部会)
久保 隆枝	交野みどりネット (エネルギー部会)
南 賢 治	企画財政部 次長
林 直 希	都市計画部 次長
藤原 功	都市整備部 次長
伊藤 雄一郎	学校教育部 次長
濱中 嘉之	環境部 部長
苗村 徹	環境部 次長兼環境事業課長
中井 俊博	環境部 環境総務課長

(3) 交野市環境基本計画ジュニア委員会

(敬称略・五十音順)

氏名	所属
池上 はづき	交野市立第二中学校
小野 桃加	学校法人創価学園 関西創価中学校
柴田 鈴菜	交野市立第四中学校
梶田 麻紘	交野市立第一中学校
西口 千百合	交野市立第三中学校
松井 和恵	学校法人創価学園 関西創価中学校
宮崎 煌一	交野市立第四中学校
宮崎 初音	交野市立第四中学校
矢野 康士朗	学校法人創価学園 関西創価中学校
他1名	

令和3年(2021年)7月29日及び8月3日に市内の中学校に通う中学生で構成する交野市環境基本計画ジュニア委員会を開催し、環境問題の現状について認識し、「2050年、私が描く交野市の環境」というテーマで、制服のリユース、環境保全における働き場の創出、森林保全の必要性、環境に配慮したライフラインの整備、飲料容器を用いた水質汚染対策、里山を利用した固有種の保全、積極的な建物の緑化対策など様々な課題解決に向けたアイデアが提案されました。



ワーキンググループによるワークショップとジュニア委員会の様子

2. 計画の策定経過

	環境審議会	計画策定ワークショップ	ジュニア委員会	市民意見
6月		6月30日 ・本事業の趣旨について ・講演「2030年、2050年の社会をイメージする」 ・市民・事業者アンケート（案）の提示		
7月		7月29日 ・環境基本計画（前計画）の総括 ・ワークショップ「2050年カーボンゼロ社会の実現に向けて」	7月29日 ・ワークショップ「2050年に向けて」	市民・事業者アンケート
8月		8月27日 ・市民・事業者アンケート報告 ・施策の検討「エネルギー」	8月3日 ・発表「2050年、私が描く交野市の環境」	
9月	9月29日 ・諮問 ・審議	9月28日 ・計画全体の枠組みについて ・施策の検討「循環型社会」「生物多様性」「生活環境」		
10月		11月8日 ・計画（素案）について		
11月		11月29日 ・計画（素案）について		
12月	12月17日 ・審議			
1月				パブリックコメント
2月				
3月	3月23日 ・審議 3月25日 ・答申			

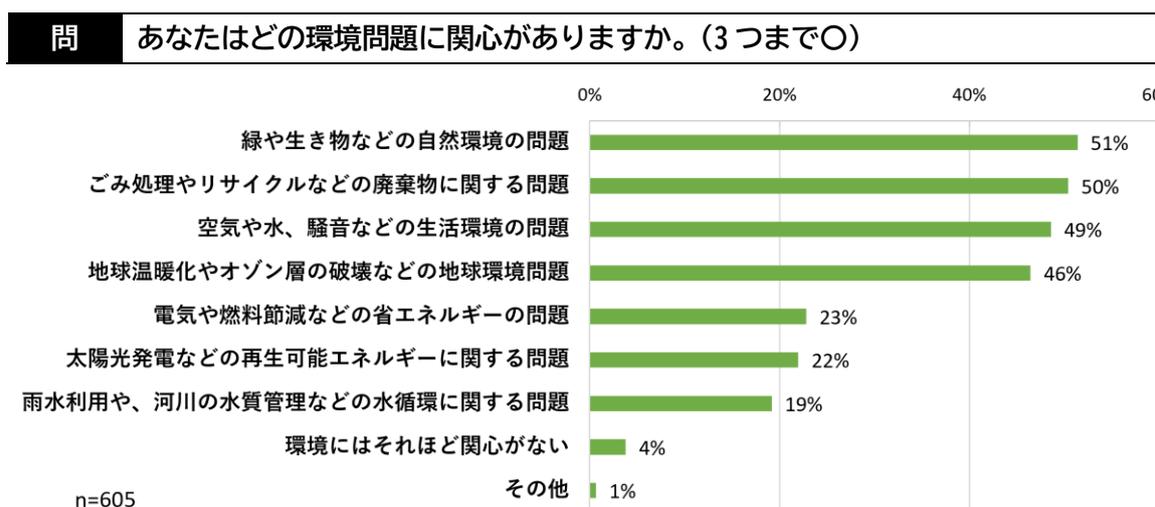
3. 市民アンケート結果（抜粋）

(1) 調査の概要

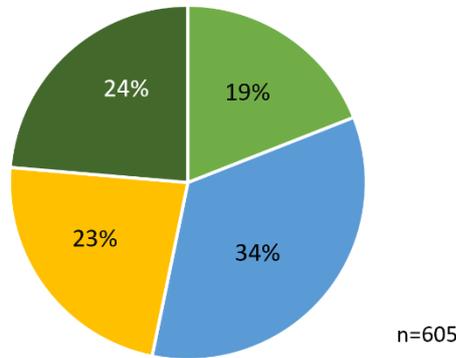
調査目的	第二次交野市環境基本計画の策定に向け、日常取り組んでいる環境活動や、今後の交野市の環境について質問した。
調査対象	2,000人（住民基本台帳より無作為抽出）
調査方法	郵送
調査時期	令和3年（2021年）7月
回収結果	617人（30.9%）
質問項目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関心のある環境問題 ・ 交野市の環境で好きなところ ・ 10年後に交野市の環境がどうなっていてほしいか など

市民アンケート調査により、市民が交野市の環境で好きなことは、緑地の多さ、水のおいしさ、静かな住環境といった豊かな自然環境であることがわかりました。本計画の目標年度である10年後の環境の姿も、こういった生活環境を保っていききたい、という意見が多くありました。

その一方で、気候変動の影響も日常生活で感じられるようになっており、10年後の姿として、公共交通の維持、避難所への再生可能エネルギー設備の導入を希望する声も多々ありました。家庭での省エネ機器の導入については、LED電球は既に普及しているものの、その他の機器はコストや、現在の住宅に合わないといった理由で導入が進んでいないこともわかりました。



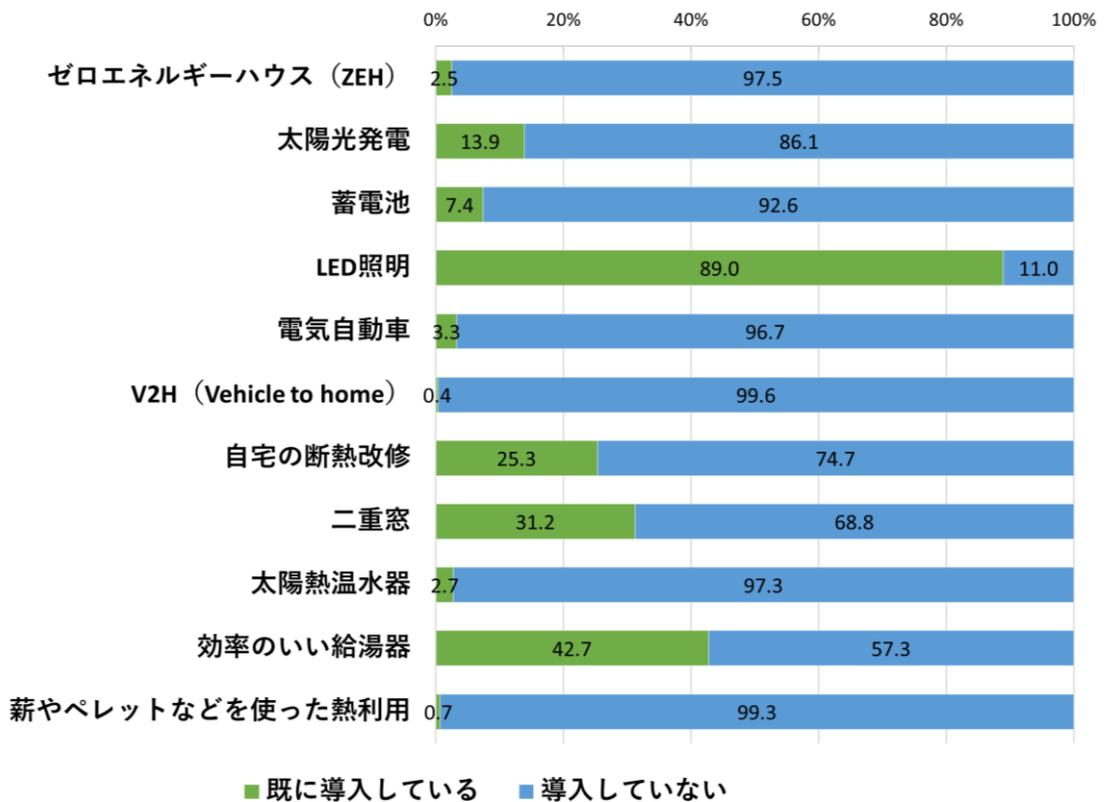
問 あなたは「SDGs」（エスディーゼーズ）を知っていますか。（3つまで○）

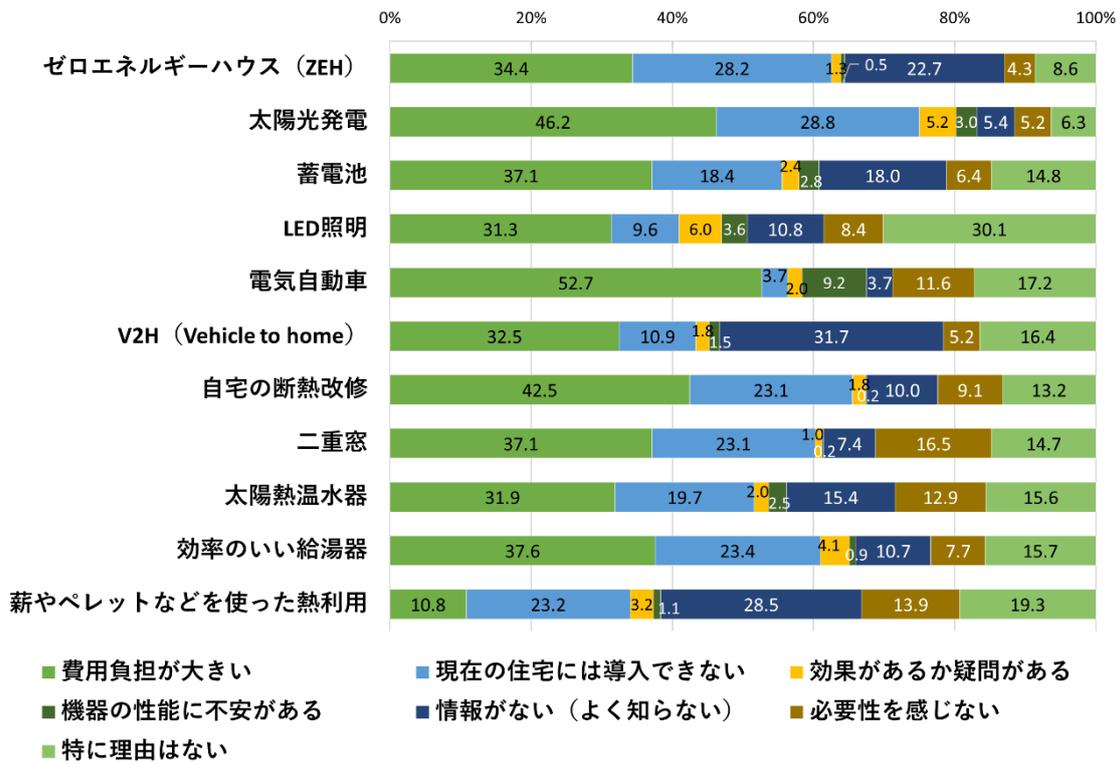


- 知っている、ゴールを意識しながら生活している
- 知っているが、自分の関わり方がわからない
- 聞いたこと・見たことがあるが、内容はよくわからない
- 知らない・聞いたことがない

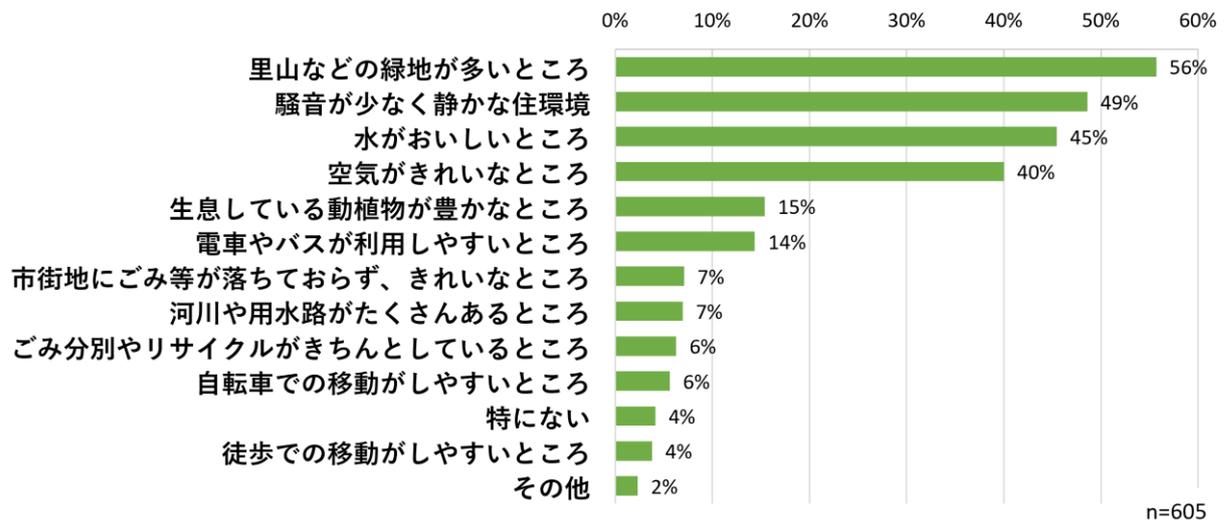
問

下記のなかで、今後ご家庭で導入したいと考えているものはありますか。
「2. 導入していない」を選択したのものについては、その理由に○をして下さい。

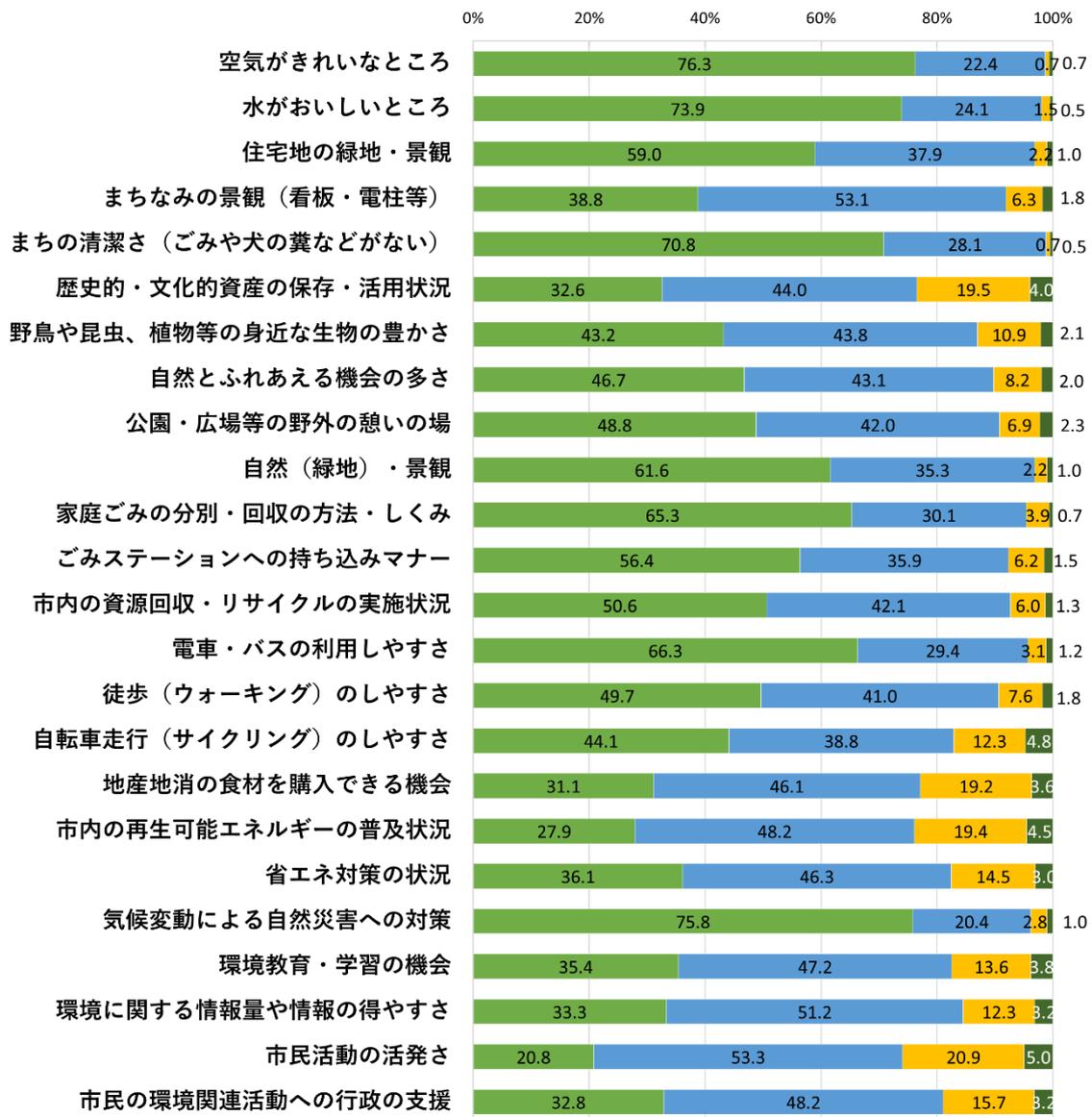




問 あなたが交野市の環境で好きなところはどこですか。(3つまで○)

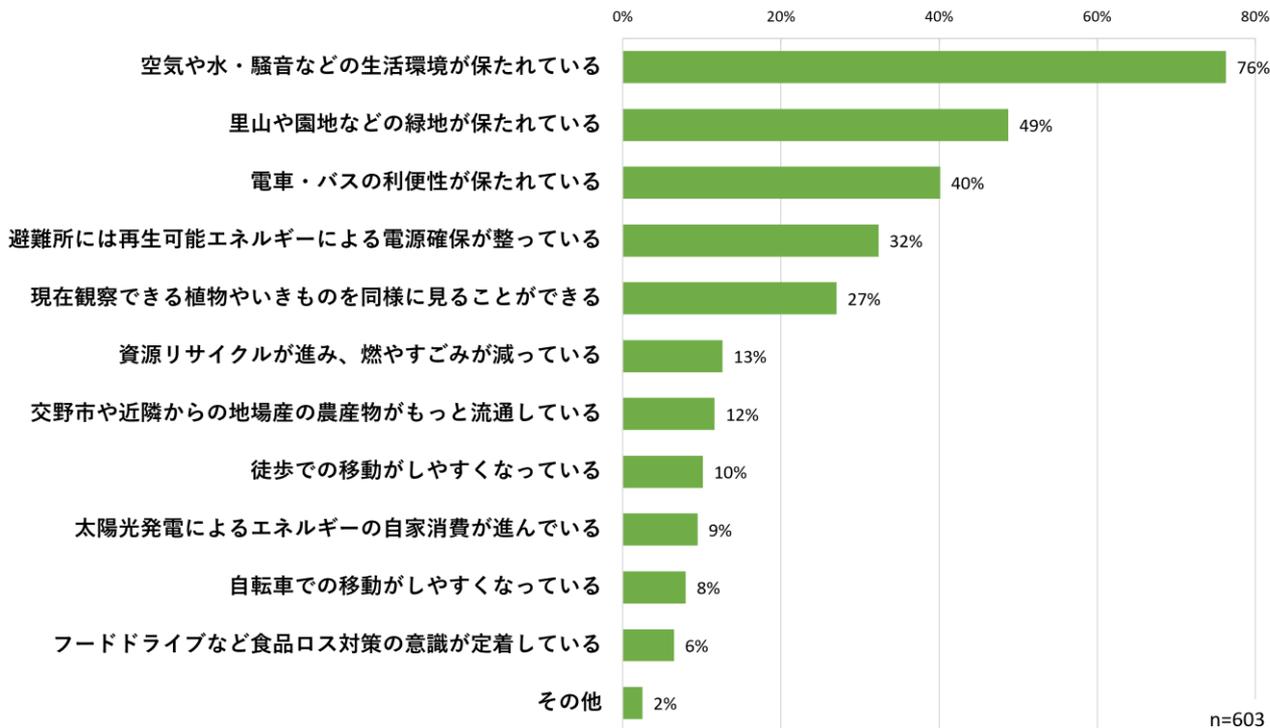


問 次の項目について、あなたが感じる重要度について伺います。

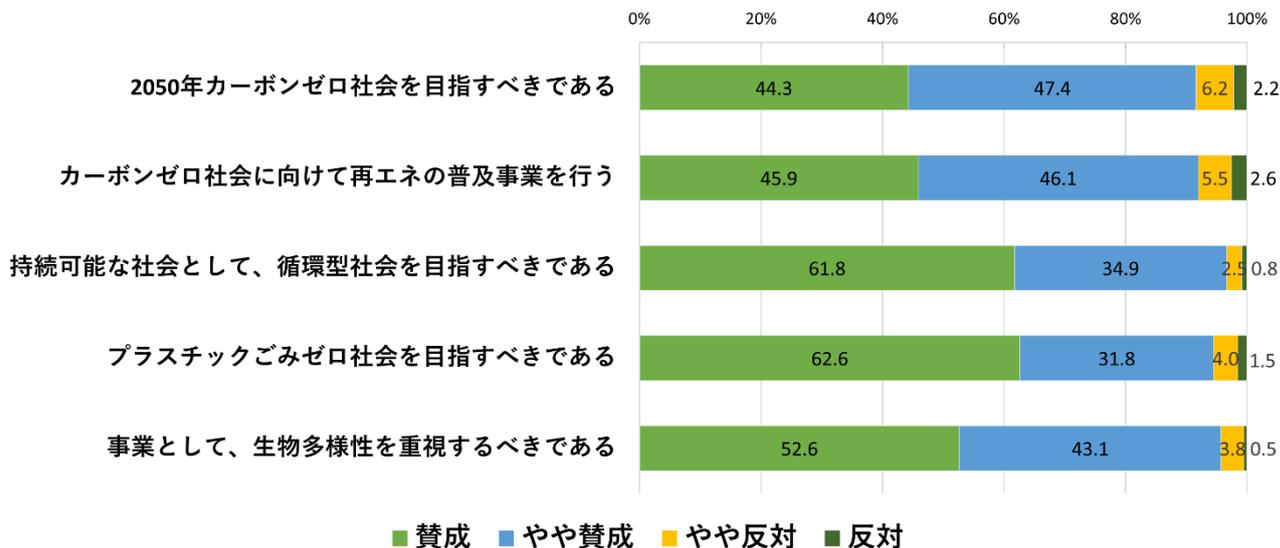


■ 重要である ■ ある程度重要である ■ あまり重要ではない ■ 重要ではない

問 10年後、交野市の環境がどうなっていてほしいと思いますか。(3つまで○)



問 2050年に向けた市の事業の方向性についてあなたの意見を伺います。



4. 事業者アンケート結果（抜粋）

(1) 調査の概要

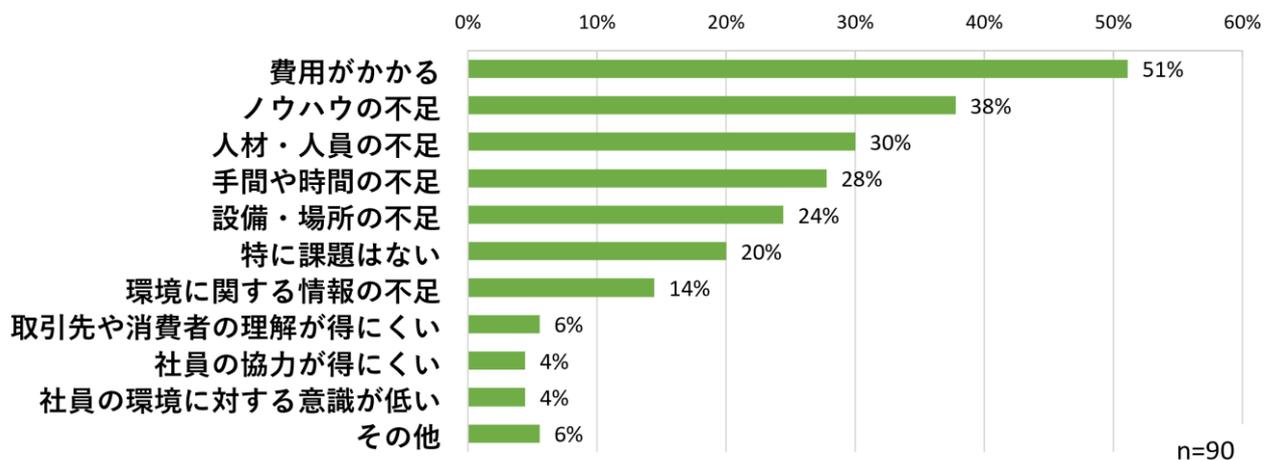
調査目的	第二次交野市環境基本計画の策定に向け、日常取り組んでいる環境活動や、今後の交野市の環境について質問した。
調査対象	事業所 295 事業所（交野市商業連合会、交野市工業会の正会員）
調査方法	郵送
調査時期	令和3年（2021年）7月
回収結果	93 通（31.5%）
質問項目	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題の取り組みを進める上で課題となっていること ・地域に対する環境保全活動についての考え方 ・実現可能な市民とともに行う環境保全活動 など

事業者アンケートにより、環境問題に事業所として取り組む課題は、費用やノウハウの不足であることがわかりました。市域での環境活動への参加については、市民団体との協働や、市からの要請への協力など、前向きな回答が多くありました。

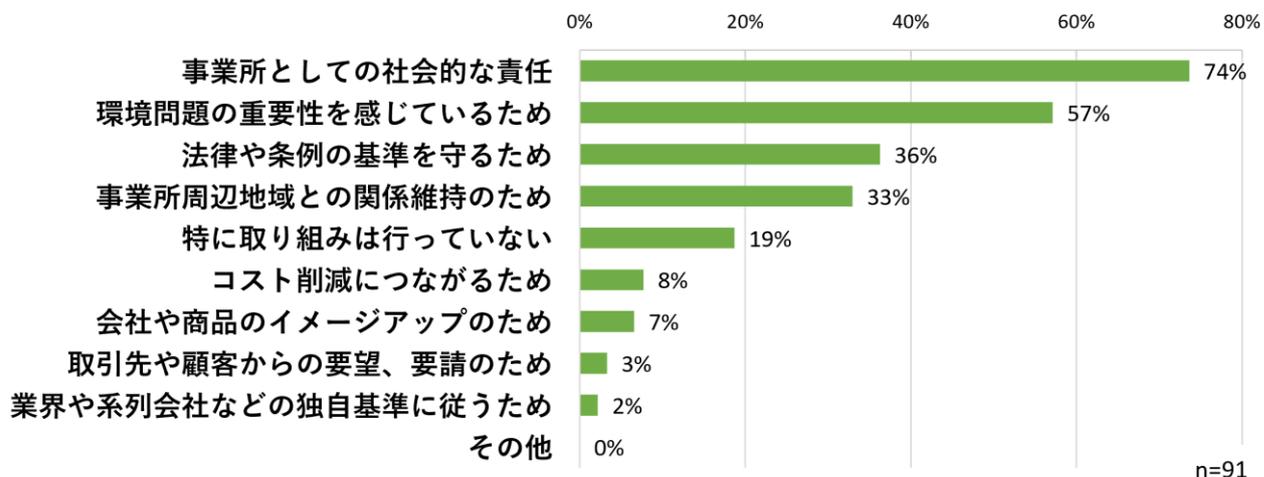
カーボンニュートラル社会に向けての機器の導入については、電気自動車の利用や、太陽光発電設備の設置への関心が高いこともわかりました。

問

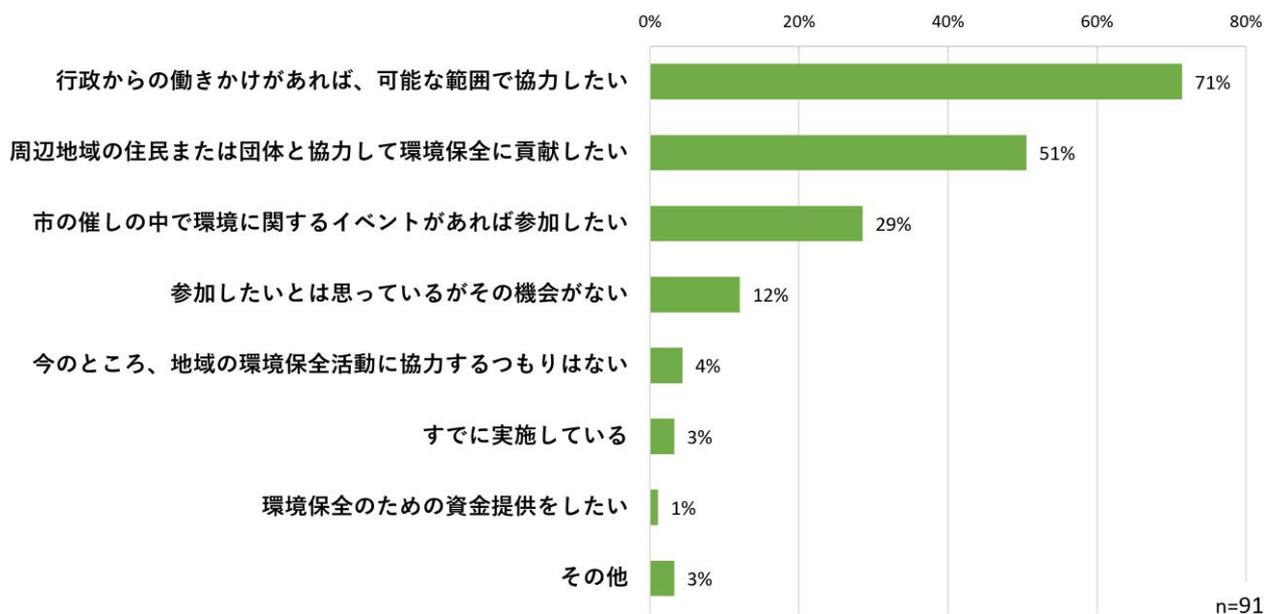
貴事業所が環境問題への取り組みを進めるうえで、課題となっていることはなんですか。（3つまで〇印）



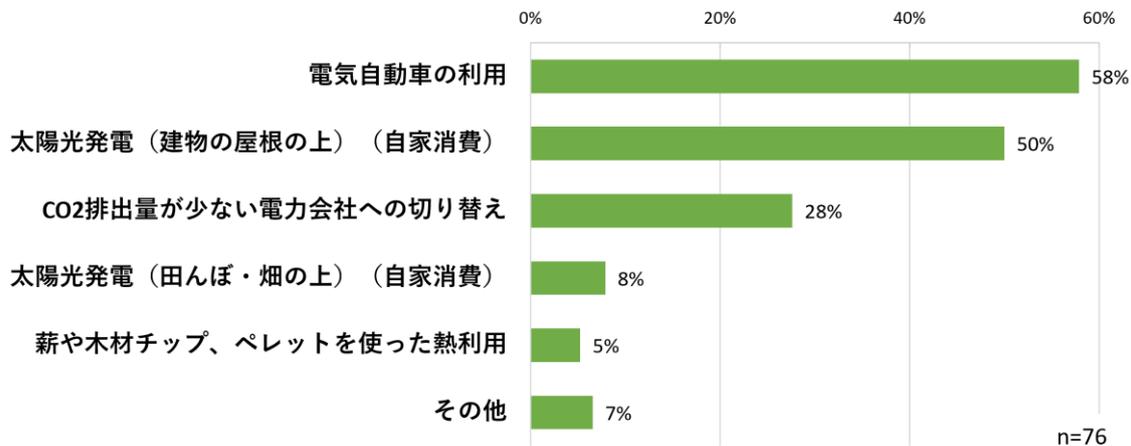
問 貴事業所が環境問題に取り組む理由はなんですか。(3つまで○印)



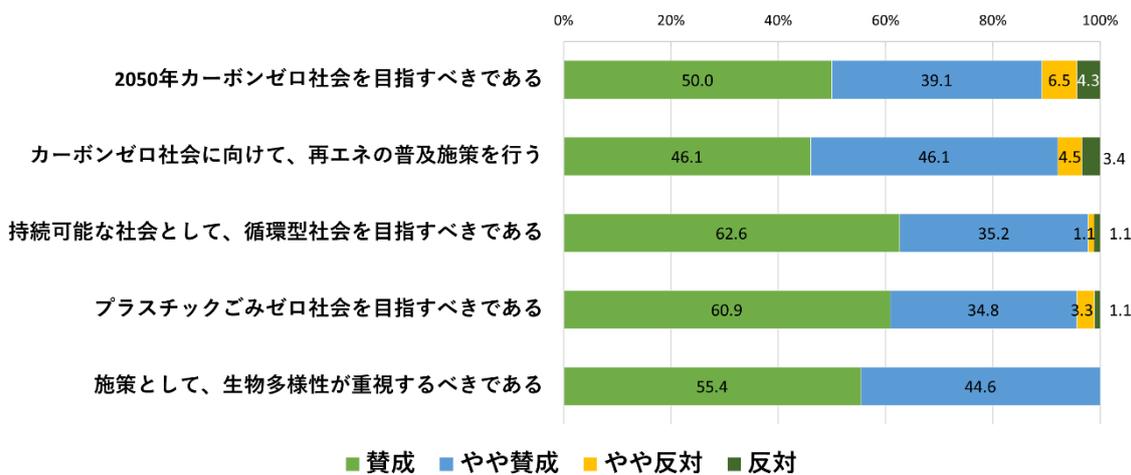
問 地域の環境保全活動についての考え方を教えてください。(あてはまるもの全てに○)



問 採算が合えば導入したいと考えているものはありますか。(あてはまるものをすべてに○印)



問 2050年に向けた市の環境施策の方向性について貴事業所の意見を教えてください。



5. 用語解説

【ア】

RE100 宣言（アールイーひゃくせんげん）

再生可能エネルギー（太陽光、風力、地熱などの自然エネルギー）の発電設備を設置するか、再生可能エネルギーの発電所からの電気を購入し、再生可能エネルギーだけで電気をまかなうことの宣言。

EV 車：Electric Vehicle

電気自動車のこと。電気をエネルギー源とし、電動機（モーター）で走る自動車。内燃機関（エンジン）を持たないので、走行時に CO₂ が出ない。

EV 充電スタンド

EV 車やプラグインハイブリッド車を充電するスタンドのこと。電動機（モーター）で走るこれらの車は、ガソリンの代わりに電気を充電する必要がある。

エシカル購入

「エシカル」とは「倫理的」という意味で、人や環境や社会に配慮した購入を行うこと。買い物をする際に、価格や品質だけでなく、どこで、誰によって、どのように作られたか考えること、その商品を購入すると社会にどのような影響があるのかを考えることもエシカル購入につながる。

エコキュート

大気中の空気の熱を利用してお湯を沸かす給湯器のこと。

エコドライブ

車を運転する際に、燃料消費量や CO₂ 排出量を削減しようとする運転方法や心がけのこと。例えば、アクセルを踏む際にゆっくり加速する、無駄なアイドリングをやめる、減速時は早めにアクセルを離すなどのことがある。

OECM（オーイーシーエム）：Other Effective area-based Conservation Measures

民間等の取組により保全が図られている地域や、保全を目的としない管理が結果として自然環境を守ることに貢献している地域のこと。従来の「保護区」のくくりでは対象とされてこなかった環境を適切に評価、認定しようという枠組み。「自然共生地域」とも呼ばれている。

温室効果ガス

地球温暖化を引き起こす原因になる気体。国連気候変動枠組条約の中では、二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、など7種類の温室効果ガスが対象になっている。現在、地球の大気中の温室効果ガスの濃度は過去に例がないくらい高くなっていると報告されている。

【カ】

海洋プラスチックごみ

プラスチック製品がポイ捨てなどきちんとした処分がされないことで、川などを通して海に流れついたプラスチックごみのこと。海洋汚染や、海の生態系に影響を及ぼすとされている。

化石燃料

大昔に存在していた動物や植物の死骸が、地中に堆積して、長い時間をかけて変形して化石化したもののうち、現在燃料として用いられているもの。石炭、石油、天然ガスなどがある。

カーボンニュートラル

二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量から、植林や森林管理による森林の吸収量や、大気中の除去量を差し引いた値がゼロになること。カーボンニュートラルを達成するためには、排出量を抑えることと、吸収量・除去量を増やすことが必要とされている。

環境マネジメントシステム

組織や事業者が、自主的に環境保全に関する取り組みを進めるにあたり、環境に関する方針や目標を自ら設定し、これらの達成に向けて取り組んでいくこと。目標を達成するためにP（Plan）→D（Do）→C（Check）→A（Action）のPDCAサイクルをまわすことが大切とされている。

緩和策

気候変動に対する取組のひとつで、地球温暖化の原因である温室効果ガスの排出削減や、再生可能エネルギーの導入、二酸化炭素の吸収源である森林を増やす取組のこと。

COOL CHOICE（クールチョイス）

日々の生活の中で地球温暖化対策になる商品・サービスを賢く選んでいこうと環境省が呼びかける取組。交野市も平成31年（2019年）3月10日に賛同することを宣言した。

固定価格買取制度：FIT（フィット）

太陽光、風力、水力、地熱、バイオマスで発電した電気を、電力会社が一定期間、一定価格

で買い取ることを約束した制度。電力会社が買い取る費用の一部は、電気を使用する消費者から「再生可能エネルギー発電促進賦課金」として電気料金と一緒に集め、再生可能エネルギーの導入を支えている。

【サ】

再生可能エネルギー

太陽光、太陽熱、風力、水力、波力、潮力、地熱、バイオマスなど、自然が常に生み出し続けているエネルギーのこと。自然エネルギーという言い方もある。

サーキュラーエコノミー (Circular Economy) : 循環型経済

これまで廃棄物として処理してきたモノも「資源」として捉え、製品、素材、資源の価値を可能な限り長く保全・維持し、可能な限りリサイクルすることにより、廃棄物の発生を最小限化することで、これまでの生産から廃棄までの一方通行でモノを使う「直線経済」からの脱却を目指す新しい経済システムのこと。

3きり運動 (さんきりうんどう)

家庭でできる食品ロスを減らすことで、ごみの量を減らす方法。買った食材を使いきる「使いきり」、食べ残しをしない「食べきり」、生ごみの水をきる「水きり」の3つの「きり」を合わせたもの。

3010 運動 (さんまるいちまるうんどう)

宴会時の食べ残しを減らすためのキャンペーンで、＜乾杯後 30 分間＞は席を立たずに料理を楽しみましょう、＜お開き 10 分前＞になったら、自分の席に戻って、再度料理を楽しみましょう、と呼びかけて、食品ロスを削減すること。

職場や知人との宴会から始めていただき、一人ひとりが「もったいない」を心がけ、楽しく美味しく宴会を楽しみましょう。

シェアリングエコノミー

個人や企業が所有するもの、場所、スキルなどの有形・無形の財産を、ほかの人に貸し出すこと、あるいは貸し出すサービスのこと。例えば、民泊やカーシェアリングなどがある。

森林環境譲与税

適切な森林の整備等を進めていくために、令和元年度(2019 年度)から、市町村や都道府県に対して、国から譲与される税。

スマートムーブ

移動による CO₂ 排出量を削減しようという試み。公共交通機関の利用、徒歩や自転車での移動、車での移動の際にはエコドライブに心がける、ゼロエミッション車に買換える、などがある。

スマートモビリティチャレンジ

将来の自動運転社会の実現を見据え、新しいモビリティサービスを導入することで、地域の移動課題の解決や、地域活性化を目指す事業。経済産業省と国土交通省が行っている。地域の企業との協働で新しい地域交通のあり方を考えていくことを目指している。

製品プラスチック

「容器包装プラスチック」以外のプラスチックでできている製品。例えば、バケツ、プランター、プラスチック製のおもちゃなどがある。

生物多様性

生物たちの豊かな個性とつながりのこと。私たちの生活は生物多様性から得られる様々な恵みと密接に関わっており、遺伝子・種・生態系それぞれの多様性を保全していくことは、持続可能な社会の実現のためにも欠かせない。

ZEH（ゼッチ）：Net Zero Energy House（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）

断熱、遮熱、高効率照明、ヒートポンプなどの省エネと太陽光パネル、エネファームなどの創エネを組み合わせ、エネルギー収支が実質ゼロとなる住宅。

ZEB（ゼブ）：Net Zero Energy Building（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）

断熱、遮熱、高効率照明、ヒートポンプなどの省エネと太陽光パネル、エネファームなどの創エネを組み合わせ、エネルギー収支が実質ゼロとなる建物。

ゼロエミッション車

走行時に環境や人間に有害な排気ガスを出さない自動車のこと。EV 車（電気自動車）や燃料電池自動車、プラグインハイブリッド自動車のことをいう。

ゼロカーボンシティ

2050 年に温室効果ガスの排出量または二酸化炭素を実質ゼロにすることを旨とする首長自らまたは地方自治体として公表された地方自治体

ソーラーシェア

田んぼや畑、ハウスの上に太陽光パネルを設置して、電気と農作物を一緒に作る仕組み。

【夕】

第三者所有モデル：PPA：Power Purchase Agreement（パワー・パーチャス・アグリーメント）

工場や大型店舗の屋根の上に、太陽光パネルを PPA 事業者を設置してもらい、そこで作られる電気を購入して使う仕組み。初期費用がかからず、通常より安く電気を購入できる。

適応策

気候変動に対する取組のひとつで、すでに起きている、あるいは今後起こる可能性のある地球温暖化の現象に対して、その影響を防止・軽減するために行うこと。例えば、農作物の新しい品種の開発や、熱中症へ予防のために暑さ指数を確認したりすることがある。

電力自由化

電気の購入先を選べること。日本では家庭でも 2016 年から電力会社を自由を選べることになった。発電に化石燃料の使用が少ない再生可能エネルギーを多く供給している電力会社を選ぶことができる。

特定外来生物

日本に入り込んだ外来生物の中で、農林水産業や、人の生命、生態系へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から、外来生物法に基づき指定された生物のこと。

【ハ】

バイオマス発電

バイオマスとは、動植物などから生まれた生物資源のこと。バイオマス発電では、この生物資源を燃焼させたり、ガス化させたりして発電する。間伐材や製材廃材、家畜の排せつ物、下水汚泥を使って発電する技術がある。

ヒートアイランド現象

都市部でアスファルトからの熱、エアコンや車からの排熱など、人口の排熱が多くなる一方で、自然風が通り抜けることを建物に阻害されることで、都市部の気温が郊外よりも高くなる現象。

V2H（ブイツーエイチ）：Vehicle to Home（ビークル・トゥ・ホーム）

電気自動車を蓄電池として活用し、家庭で使用活用するしくみ。例えば、日中に太陽光発電し、消費しきれない分を電気自動車に溜めて、発電できない夜間に電気自動車から電力を家庭に供給したりすること。

フードドライブ

家庭で余っている食べ物を学校や職場などに持ち寄り、それらをまとめて地域の福祉団体や施設、フードバンクなどに寄付する活動のこと。

【マ】

マイクログリッド

家庭の太陽光発電など、小規模の地域内で小規模の発電所をネットワーク化し、需要にあわせて、電力の需給バランスを調整し、安定した電力を供給するシステム。

【ヤ】

有機 JAS 認証

種まきや植え付けの 2 年前から禁止農薬や化学肥料、遺伝子組み換え技術を使用していない畑や田んぼで栽培される農作物を「有機農産物」として認証する制度。有機 JAS 認証を取得していない農産物に「有機」や「オーガニック」といった言葉を使用することは禁止されている。

4R（よんアール）

ごみを減らす取組の 3R（リデュース=抑制、リユース=再使用、リサイクル=再生利用）にもうひとつの R（リフューズ=断る）を加えた 4 つの「R」のことをいう。

【ワ】

ワンウェイプラスチック

一度だけ使用した後に役目を終えることが想定されるプラスチックのこと。例えば、スーパーやストローなどのプラスチック製品、レジ袋やペットボトルなどの容器包装プラスチックがある。